

Quest® NetVault® プラグ-イン
(*Microsoft Office 365 用*) 13.0
ユーザーズ・ガイド



© 2020 日本クエスト・ソフトウェア株式会社

ALL RIGHTS RESERVED.

本書には、著作権によって保護されている機密情報が記載されています。本書に記載されているソフトウェアは、ソフトウェア・ライセンスまたは機密保持契約に基づいて提供されます。本ソフトウェアは、当該契約の条項に準拠している場合限り、使用または複製することができます。本書のいかなる部分も日本クエスト・ソフトウェア株式会社の書面による許可なしに、購入者の個人的な使用以外の目的で、複写や記録などの電子的または機械的ないかなる形式や手段によっても複製または転送することはできません。

本書には、Quest Software 製品に関連する情報が記載されています。明示的、黙示的、または禁反言などを問わず、本書または Quest Software 製品の販売に関連して、いかなる知的所有権のライセンスも付与されません。本製品の使用許諾契約の契約条件に規定されている場合を除き、QUEST SOFTWARE はいかなる責任も負わず、製品に関連する明示的、黙示的または法律上の保証（商品性、特定の目的に対する適合性、権利を侵害しないことに関する黙示的保証を含む）を否認します。QUEST SOFTWARE は、損害が生じる可能性について報告を受けたとしても、本ドキュメントの使用、または使用できないことから生じるいかなる、直接的、間接的、必然的、懲罰的、特有または偶発的な障害（無期限、利益の損失、事業中断、情報の損失も含む）に対しても責任を負わないものとします。Quest Software は、本書の内容の正確性または完全性について、いかなる表明または保証も行わず、通知なしにいつでも仕様および製品説明を変更する権利を有します。Quest Software は、本書の情報を更新する一切の義務を負いません。

本文書の使用に関してご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

日本クエスト・ソフトウェア株式会社
宛先：法律部門
東京都新宿区西新宿 6-10-1
日土地西新宿ビル 13F

日本国内および海外の事業所の情報に関しては、弊社の Web サイト (<https://www.quest.com/jp-ja>) を参照してください。

特許

高度なテクノロジーは Quest Software の誇りです。特許および出願中の特許がこの製品に適用される可能性があります。この製品に適用される特許に関する最新情報については、<https://www.quest.com/jp-ja/legal> の弊社 Web サイトを参照してください。

商標

Quest Software、Quest、Quest ロゴ、および NetVault は、日本クエスト・ソフトウェア株式会社の商標および登録商標です。Quest の商標の詳細な一覧については、<https://www.quest.com/jp-ja/legal/trademark-information.aspx> を参照してください。その他すべての商標および登録商標は各社に帰属します。

凡例

- **警告**：警告アイコンは、潜在的な資産の損害、個人の負傷または死亡の可能性を表しています。
- ! **注意**：注意アイコンは、指示に従わなかった場合に、ハードウェアの損傷やデータの損失につながる可能性があることを表しています。
- ! **重要、メモ、ヒント、モバイル、またはビデオ**：情報アイコンは、補足的情報を表しています。

NetVault プラグ-イン (Microsoft Office 365 用) ユーザーズ・ガイド
更新 - 2020 年 4 月
ソフトウェア・バージョン - 13.0

目次

NetVault プラグ-イン (Microsoft Office 365 用) – はじめに	4
NetVault プラグ-イン (Microsoft Office 365 用): 概要	4
主な利点	4
機能概要	5
対象ユーザー	6
参考資料	6
プラグインのインストールと削除	7
インストールの前提条件	7
Azure AD および SharePoint Online の制限	7
プラグインのインストールまたは アップグレード	8
プラグインの削除	8
プラグインの設定	9
Office 365 管理者ポータルを使用した 設定詳細の取得	9
プラグインへの設定詳細の入力	11
構成ファイル・パラメータの変更によるバックアップおよびリストアの パフォーマンス向上	12
データのバックアップ	14
バックアップおよびリカバリ戦略の定義	14
受信箱フォルダーの除外および包含に 使用するパターンの追加	15
バックアップの実行	16
バックアップ対象データの選択	16
バックアップ・オプションの設定	17
バックアップ・ジョブのファイナライズと実行	18
データのリストア	19
リストア対象データの選択	19
Outlook でのリストア・オプションの設定	20
Azure AD でのリストア・オプションの設定	20
リストア・ジョブのファイナライズと実行	21
リストア・プロセス中の受信箱または OneDrive アカウントの再配置	21
細分化された項目の検索	22
トラブルシューティング	23
弊社について	24
テクニカル・サポート用リソース	24

NetVault プラグ-イン (Microsoft Office 365 用) – はじめ に

- [NetVault プラグ-イン \(Microsoft Office 365 用\) : 概要](#)
- [主な利点](#)
- [機能概要](#)
- [対象ユーザー](#)
- [参考資料](#)

NetVault プラグ-イン (Microsoft Office 365 用) : 概要

Quest® NetVault® プラグ-イン (Microsoft Office 365 用) (プラグ-イン (Microsoft Office 365 用)) は、Microsoft Office 365 (Office 365) を使用して作成するデータのリカバリー可能性に対する信頼性を高めます。Office 365 は、SaaS (Software as a Service) を提供するクラウドベースのサービスです。プラグインを使って、ユーザーはさまざまなリカバリー・シナリオに対応したバックアップ・ポリシーを柔軟に作成することができます。プラグインでは、Web ベースのユーザー・インターフェイス (WebUI) と自動化されたワークフロー・プロセスを使用して、集中的な手段で Office 365 のバックアップおよびリストアのポリシーを確立、設定、定義できます。幅広いバックアップ・デバイスが統合されるため、データの保護およびオフサイトへの保存によって障害復旧および業務継続性の目標が満たされるという安心感を得ることができます。

プラグインにより、Office 365 で Microsoft Outlook、OneDrive、SharePoint Online、Teams、Azure AD アカウ
ントのフル・バックアップと増分バックアップおよびリストアが可能になります。プラグインを使用すると、通
常のバックアップ・プロセスの一部として、アクセス可能な場所にバックアップが保存されます。バックアップ
のサイズを管理し、ネットワーク帯域幅に対応するために、バックアップ・プロセスの一部としてさまざまな項
目を包含したり除外したりすることができます。

i | **メモ:** プラグ-イン (Microsoft Office 365 用) は SharePoint Online をサポートします。SharePoint Server
のバックアップやリストアはサポートしていません。

主な利点

- **Office 365 へのサブスクリプション時でもシステムの信頼性を高め、リスクを低減:** プラグインを使用すると、さまざまなリカバリー・シナリオに対応できる柔軟性のあるバックアップ・ポリシーを作成できます。

バックアップ機能には以下のものがあります。

- 個人、共有、リソース受信箱の保護
- カレンダー、カレンダー・グループ、イベントの保護
- SharePoint Online サイトとサブサイトの保護
- Teams の保護
- データをオンラインにした状態、すなわちアクセス可能な状態でフル、増分バックアップを実行

i | **メモ** : Teams の場合、フル・バックアップにはすべての標準項目が含まれます。増分バックアップには、ほとんどの項目のフル・バックアップとチャット・メッセージの増分バックアップが含まれます。

- OneDrive に配置されたファイルとフォルダーの保護
- ユーザー、グループ、サービス・プリンシパルのフル・バックアップと増分バックアップ
- シングル・テナント・アプリケーション認証および認証モデルのサポート

プラグインを使用してバックアップ・ポリシーを実装すると、障害発生時に必要となるリカバリ作業をおろそかにすることなく、より重要なタスクに専念することができます。また、どのような状況であろうと、電子メールが保護されていることが分かっているため、IT 管理者の安心感が高まります。

- **高速なリストアによりダウンタイムを短縮** : リストアに必要なバックアップ・セットを選ぶだけで、プラグインが自動的にリストアを実行します。

このほか、以下のリストア機能を備えています。

- フルおよび増分リストア
- 個人、共有、リソース受信箱のリストア
- カレンダー、カレンダー・グループ、イベントのリストア
- サイトおよびサブサイトのリストア
- Teams およびサポートされている Microsoft アプリケーションのリストア
- 個々の電子メール・メッセージのリストア
- 個々のファイルやディレクトリのリストア
- ユーザー、グループ、サービス・プリンシパルのリストア

- **ビジネスの継続性を確保** : ビジネス上重要なアプリケーションのデータ保護でオフサイト・バックアップは重要です。本プラグインは幅広いバックアップ・デバイスと NetVault との統合を有効に活用します。NetVault では、バックアップの保存先バックアップ・デバイスを柔軟に選択することができます。

削除された電子メールが 30 日経過するとリカバリーできないなど、ユーザー・データに対するネイティブ・バックアップおよび柔軟なリカバリー機能の欠如に対処するために、プラグインを使用して、より堅牢なバックアップおよびリカバリーを実装することができます。また、プラグインは、ユーザーの受信箱や OneDrive が破損した場合にも、データを確実に保護します。

- **バックアップ・ウィンドウを削減し、ストレージを軽減** : 電子メールが保護され、障害復旧に備えてオフサイトに保存されているという安心感を提供します。同時に、経験が浅くてもリストアを開始できるため、ダウンタイムが短縮され、ビジネス継続性が高まり、管理者は常時待機している必要がなくなります。

機能概要

- 個人、共有、リソース受信箱の保護
- カレンダー、カレンダー・グループ、イベントの保護
- OneDrive に配置されたファイルとフォルダーの保護
- Teams の保護

- データをオンラインにした状態、すなわちアクセス可能な状態でフル、増分バックアップを実行
- フルおよび増分リストア
- 個人、共有、リソース受信箱のリストア
- カレンダー、カレンダー・グループ、イベントのリストア
- Teams およびサポートされている Microsoft アプリケーションのリストア
- 個々の電子メール・メッセージのリストア
- 個々のファイルやディレクトリのリストア
- ドキュメントおよびフォーム・テンプレートのリストア
- スタイル・ライブラリーのリストア
- サイトおよびサブサイト・ページのリストア
- Azure AD ユーザー、グループ、サービス・プリンシパルのリストア
- ポイント・アンド・クリック WebUI
- リストア中の受信箱の移動

対象ユーザー

本ガイドは Office 365 のバックアップおよびリカバリーを担当するユーザーを対象としています。Office 365 の管理について習熟していることを前提としています。Office 365 についての高度な知識があれば、効率的なバックアップおよびリストア戦略の定義に役立ちます。

参考資料

Quest は、本プラグインの設定時および使用中に **Office 365 ドキュメンテーション** (<https://docs.microsoft.com/ja-JP/Office365/> および [https://technet.microsoft.com/en-us/library/dn127064\(v=office.14\).aspx](https://technet.microsoft.com/en-us/library/dn127064(v=office.14).aspx)) をすぐに利用できるよう準備しておくことをお勧めします。

以下のドキュメントも利用可能です。

- Quest NetVault インストールेशन・ガイド：このガイドでは、NetVault サーバーおよびクライアント・ソフトウェアのインストール方法について詳しく説明しています。
- Quest NetVault アドミニストレーターズ・ガイド：このガイドでは、NetVault の使用方法と、すべてのプラグインで共通の機能について詳説します。
- Quest NetVaultCLI リファレンス・ガイド：このガイドでは、コマンドライン・ユーティリティの詳細な説明を提供します。

これらのガイドは、<https://support.quest.com/technical-documents> からダウンロードできます。

プラグインのインストールと削除

- インストールの前提条件
- プラグインのインストールまたはアップグレード
- プラグインの削除

インストールの前提条件

プラグインは、Microsoft .NET Framework バージョン 4.7.2 以降をサポートする 64 ビット版 Windows Server ベースの NetVault サーバーまたはクライアントにインストールできます。

- **Microsoft .NET Framework がインストールされていることの確認**：使用するサーバーは、.NET Framework のバージョン 4.7.2 以降をサポートしている必要があります。
- **NetVault サーバーまたはクライアント・ソフトウェアのインストール**：サーバー上には、最低でも NetVault クライアント・ソフトウェアがインストールされている必要があります。NetVault サーバーまたはクライアント・ソフトウェアのインストールについての詳細は、『Quest NetVault インストール・ガイド』を参照してください。
- **サーバーまたはクライアントが帯域幅の大きいインターネットにアクセスできることを確認します**。バックアップされたデータはクラウドベースのサーバー上にあり、ローカル・ストレージ・メディアにダウンロードされるため、Quest では、インターネット帯域幅が大きいクライアントまたはサーバーにプラグインをインストールすることをお勧めします。

Azure AD および SharePoint Online の制限

Azure AD および SharePoint Online コンテンツのバックアップとリストアを目的としてプラグイン（Microsoft Office 365 用）をインストールする際は、次の制限事項を考慮する必要があります。

Azure AD の場合：

- メール対応セキュリティおよび配布グループのリストアはサポートされていません。
- サービス・プリンシパルのクライアント秘密鍵はリストアできません。
- バックアップ時に継承されたライセンスは、直接割り当てられたライセンスとしてリストアされます。

SharePoint Online の場合：

- 次の種類の SharePoint Online サイト・リストのバックアップとリストアはサポートされていません。
 - プロセス図
 - プロモートされたリンク
 - 関連アクション
 - レポート・ライブラリー
 - ステータス付きの Web パーツ・ページ

- クラシック・チーム・サイトの場合のみ、アセット・ライブラリー・タイプ・リストのバックアップおよびリストアは行われません。

プラグインのインストールまたはアップグレード

次のトピックでは、プラグインを単一のクライアントにインストールするか、既存のクライアントをアップグレードするプロセスについて説明します。クライアントがすべて同じタイプの場合、NetVault 設定ウィザードを使用して複数のクライアントに同時にプラグインをインストールできます。プッシュ・インストールを使用して複数のクライアントを同時に更新する方法の詳細については、『QuestNetVault 管理者ガイド』を参照してください。

- 1 [ナビゲーション] パネルで、[クライアント管理] をクリックします。
- 2 [クライアント管理] ページで、表の利用可能なクライアントを選択して、[管理] をクリックします。
- 3 [クライアント表示] ページで、[+] をクリックします。
- 4 プラグインの .npk インストール・ファイルの場所（インストール用 CD や、Web サイトからファイルをダウンロードしたディレクトリなど）へ移動します。
インストール CD では、このソフトウェアのディレクトリ・パスは OS によって異なります。
- 5 「not-x-x-x-x.npk」というファイル（xxxxx はバージョン番号とプラットフォームを表す）を選択し、[開く] をクリックします。
プラグインが正常にインストールされると、メッセージが表示されます。

プラグインの削除

- 1 [ナビゲーション] パネルで、[クライアント管理] をクリックします。
- 2 [クライアント管理] ページで、利用可能なクライアントを選択して、[管理] をクリックします。
- 3 [クライアント表示] ページの [インストール済みソフトウェア] の表で、該当するプラグインを選択し、[-] をクリックします。
- 4 [確認] ダイアログ・ボックスで、[削除] をクリックします。

プラグインの設定

- Office 365 管理者ポータルを使用した 設定詳細の取得
- プラグインへの設定詳細の入力
- 構成ファイル・パラメータの変更によるバックアップおよびリストアの パフォーマンス向上

Office 365 管理者ポータルを使用した 設定詳細の取得

バックアップを開始する前に、Office 365 管理者ポータルから設定情報を取得し、プラグインの設定セクションに情報を入力する必要があります。

- 1 Office 365 管理者ポータル (<https://portal.microsoftonline.com/>) にアクセスして、**Admin** アプリを開きます。
- 2 左側のナビゲーション・パネルで、**【管理センター】** をクリックし、リストから **【Azure Active Directory】** を選択します。
- 3 **【Azure Active Directory 管理センター】** の **【すべてのサービス】** で、**【Azure Active Directory】** をクリックします。
- 4 **【管理】** セクションで、**【アプリの登録】** をクリックしてから **【新しい登録】** をクリックします。
- 5 以下のフィールドに入力します。
 - **名前** : NetVault プラグインの名前 (**PluginOffice365** など) を入力します。
 - **アプリケーション・タイプ** : リストから、**【Web app/API】** を選択します。
 - **リダイレクト URL** : NetVault との対話に使用する URL (<https://<machineName>:8443> など) を入力します。
- 6 **【登録】** をクリックして、表示されるページに一覧表示されている **アプリケーション ID** を確認します。
Quest では、テキスト・ファイルにコピーして保存するなど、この情報を記録することを強くお勧めします。
- 7 **【管理】** セクションで、**【アプリの登録】** をもう一度クリックし、**【登録済みアプリ】** をクリックして、**【認証】** をクリックします。
- 8 **【サポートされているアカウント・タイプ】** セクションで、**【任意の組織ディレクトリのアカウント (Azure AD ディレクトリ - マルチテナント)】** オプションが選択されていない場合は選択します。
- 9 **【詳細設定】** セクションで **【はい】** を選択して、**【アプリケーションをパブリック・クライアントとして扱う】** オプションを有効にします。
- 10 **【管理】** セクションで、**【API アクセス権】** をクリックします。
- 11 **【API アクセス権】** で、**【アクセス権の追加】** をクリックします。
- 12 以下のオプションの 1 つを選択します。

- **API の選択** : この方法を使用するには、[Microsoft Graph] を選択してから [選択] をクリックします。

- **権限の選択** : このプロセスを使用するには、次の手順を実行します。

- a [アプリケーション・アクセス権]を選択してから、次の項目を選択します。

- Calendars.Read
- Calendars.ReadWrite
- ChannelMessage.Read.All
- Directory.ReadWrite.All
- Files.Read.All
- Files.ReadWrite.All
- Group.Read.All
- Group.ReadWrite.All
- Mail.Read
- Mail.ReadWrite
- MailboxSettings.Read
- MailboxSettings.ReadWrite
- Sites.FullControl.All
- Sites.Manage.All
- Sites.Read.All
- Sites.ReadWrite.All
- User.Read.All
- User.ReadWrite.All534

- b [委任されたアクセス権]を選択し、次の項目を選択します。

- ChannelMessage.Read.All
- Group.ReadWrite.All
- User.Read(このアクセス権は、登録済みアプリにデフォルトで追加されます)

- c [アクセス権追加]をクリックします。

- d プラグインを設定した後でプラグ-イン (Microsoft Office 365用)にアクセス権を割り当てるには、[必要なアクセス権]タブで[アクセス権の付与]をクリックして、確認メッセージが表示されたら[はい]をクリックします。

i | **メモ** : Azure AD サービス・プリンシパルをバックアップおよびリストアするには、プラグインの設定に使用される登録済みアプリケーションがグローバル管理者およびアプリケーション管理者である必要があります。

- 13 [管理] タブの [証明書と秘密] セクションで、[新しいクライアントの秘密] をクリックして、プラグインで使用するパスワードを作成します。

- 14 説明を入力し、有効期限を選択して、[追加] をクリックし、[値] ボックスの情報をメモします。

Quest では、テキスト・ファイルにコピーして保存するなど、この情報を記録することを強くお勧めします。

i | **重要** : 後でこの鍵を取得することはできません。プラグインの設定時に参照用に記録しない場合は、新しい鍵を生成する必要があります。

15 Office 365 で使用するドメイン名を確認するには、左側のナビゲーション・パネルで再度 **[Azure Active Directory]** をクリックします。

16 **[概要]** をクリックし、ドメイン名をメモします。

Quest では、テキスト・ファイルにコピーして保存するなど、この情報を記録することを強くお勧めします。

プラグインへの設定詳細の入力

アプリケーション ID、パスワード、ドメイン名を確認したら、プラグインの設定セクションに情報を入力する必要があります。

i **メモ** : SharePoint Online 用に設定されたユーザーは、バックアップしたサイトとバックアップされたコンテンツをリストアする場所に「グローバル」管理者アクセス権を持つ必要があります。

プラグイン用に設定されたユーザーが Teams のバックアップおよびリストア・ジョブを生成するには、Teams プラットフォームのメンバーである必要があります。

- 1 [ナビゲーション] パネルで、**[バックアップ・ジョブ作成]** をクリックして、次に **[セクション]** リストの隣にある **[+]** をクリックします。
- 2 セクション・ツリー内で適切なクライアント・ノードを開きます。
- 3 **[プラグ-イン (Microsoft Office 365 用)]** をクリックして、コンテキスト・メニューから **[設定]** を選択します。
- 4 **[設定]** ダイアログで、前のプロセスで記録した情報を使用して、次のフィールドに入力します。
[Office 365 管理者ポータルを使用した 設定詳細の取得](#)
 - アプリケーション・ドメイン
 - アプリケーション ID
 - アプリケーション・パスワード

! **注意** : WebUIの**[設定変更]**オプションを使用して、これらの設定を入力または更新しないでください。

- 5 SharePoint Online または Teams、またはその両方を保護する場合は、**[グローバル管理者資格情報の入力]** チェック・ボックスをオンにして、管理者のユーザー名とパスワードを入力します。

管理者に**グローバル管理者**ロールが割り当てられており、保護するサイトまたはチームの所有者またはメンバーであることを確認します。User Principal Name (UPN) 形式 (例 : **user1@testdomain.onmicrosoft.com**) を使用して、**[管理者ユーザー名]** フィールドに入力します。

- 6 設定を保存するには、**[OK]** をクリックします。

アカウントが適切に設定されている場合は、**プラグ-イン (Microsoft Office 365 用)** ノードをクリックして、使用可能な受信箱と OneDrive のユーザーおよびグループを表示できます。

構成ファイル・パラメータの変更による バックアップおよびリストアの パフォーマンス向上

Microsoft Outlook および OneDrive アカウントのバックアップおよびリストア・ジョブのパフォーマンスを管理する場合は、**nvoffice.cfg** ファイルで次のパラメータを変更できます。このファイルのデフォルトの場所は **C:\Program Files\Quest\NetVault\config** です。

使用する値は、バックアップおよびリストア・ジョブに対して **[マルチストリーミングを有効にする]** オプションで選択した値と、ネットワークでサポートされる帯域幅によって異なります。

次の表に、パラメータ、デフォルト設定、およびその影響の説明を示します。

表1. ネットワークの耐障害性でサポートされるパラメータ

パラメータ	デフォルト	説明
耐障害性:再試行回数	3	障害発生後にプラグインがGRAPH APIを実行する回数を示します。
耐障害性:再試行遅延	5(単位:秒)	障害発生後にプラグインがGRAPH APIを再実行するまでに待機する時間を示します。

表2. Outlookでサポートされているパラメータ

パラメータ	デフォルト	説明
MsOutlook:添付ファイルなしメール	1000	GRAPH APIの1回の呼び出しでフェッチできる、添付ファイルのない電子メール・メッセージの数を示します。値1000は最大許容値です。
MsOutlook:添付ファイル付きメール	10	GRAPH APIの1回の呼び出しでフェッチできる、添付ファイル付きの電子メール・メッセージの数を示します。添付ファイルのサイズとネットワーク帯域幅に応じて、この値を大きくしてデータ転送速度を上げることができます。
MsOneDrive:リストア・チャンク・サイズ	5(単位:MB)	OneDrive上のチャンクでメールの添付ファイルとイベント・タイプの添付ファイルをリストアするために使用できるチャンク・サイズを示します。チャンク・サイズは320 KiBの倍数(327,680バイト)にする必要があります。320 KiBで割り切れないチャンク・サイズを使用した場合、ファイルのコミット時にエラーが発生します。ネットワーク帯域幅に応じ、この値を大きくしてデータ転送速度を上げることができます。サポートされている速度を超えると、GRAPH APIによってタイムアウト例外が生成される場合があります。

表3. OneDriveでサポートされているパラメータ

パラメータ	デフォルト	説明
MsOneDrive: バックアップ・チャンク・サイズ	5(単位:MB)	ファイルのバックアップ(ダウンロード)に使用できるチャンク・サイズを示します。チャンク・サイズは320 KiBの倍数(327,680バイト)にする必要があります。320 KiBで割り切れないチャンク・サイズを使用した場合、ファイルのコミット時にエラーが発生します。ネットワーク帯域幅に応じ、この値を大きくしてデータ転送速度を上げることができます。サポートされている速度を超えると、GRAPH APIによってタイムアウト例外が生成される場合があります。
MsOneDrive: フォルダーごとの並列ファイル・メタデータ	1000	GRAPH APIの1回の呼び出しでフェッチできる、メタデータを持つファイルの数を示します。値1000は最大許容値です。
MsOneDrive: リストア・チャンク・サイズ	5(単位:MB)	ファイルのリストア(アップロード)に使用できるチャンク・サイズを示します。チャンク・サイズは320 KiBの倍数(327,680バイト)にする必要があります。320 KiBで割り切れないチャンク・サイズを使用した場合、ファイルのコミット時にエラーが発生します。ネットワーク帯域幅に応じ、この値を大きくしてデータ転送速度を上げることができます。サポートされている速度を超えると、GRAPH APIによってタイムアウト例外が生成される場合があります。

データのバックアップ

- バックアップおよびリカバリ戦略の定義
- 受信箱フォルダーの除外および包含に使用するパターンの追加
- バックアップの実行

バックアップおよびリカバリ戦略の定義

Office 365 のバックアップを作成する目的は、メディア障害またはデータの破損によって損傷した受信箱またはサイトのコンテンツをリカバリすることです。バックアップを使用して確実にリカバリするには、定義されたビジネス要件を考慮して、データの可用性を最大限に確保しながらデータ損失を最小限に抑えるよう戦略を策定する必要があります。

戦略は、バックアップ要素とリストア要素の2つの要素からなります。

- バックアップ要素では、データベースの可用性確保およびデータ損失の最小化の目標を達成するために必要なバックアップのタイプと実行頻度を定義します。
- リストア要素では、リストアの実行責任者と、特定タイプの損傷または障害からリカバリするためにどのようなリストアを実行するかを定義します。

バックアップ計画には、バックアップの実行間隔、バックアップの保管方法、バックアップの保持期間、バックアップ・メディアの再利用方法を定義する必要があります。

プラグインでは、以下のバックアップ・タイプを使用できます。

- **フル・バックアップのみ**：バックアップ・サイズが小さい、バックアップ・ウィンドウが重要ではない、またはストレージ・メディアの制約がない場合は、フル・バックアップのみを実行することができます。このようなシナリオの場合、フル・バックアップのタイミングを、更新頻度に応じて、毎晩またはN時間ごとに設定することができます。

問題が発生した場合、プラグインで実行する必要があるのは、1つのセーブセットのリストアだけです。

- **フル・バックアップと増分バックアップ**：短時間でバックアップを行い、ストレージ・メディアの消費を最低限に抑えるには、フル・バックアップと増分バックアップを計画に含めることができます。たとえば、データの更新頻度に応じて、毎週日曜日にフル・バックアップを実行し、毎日またはN時間ごとに増分バックアップを実行するようにスケジュールできます。

障害発生時には、最新のフル・バックアップとそれ以降に実施された増分バックアップから順番にデータをリストアする必要があります。複数の増分セーブセットからデータをリストアする必要がある場合は、リストアに時間がかかります。たとえば土曜日に障害が発生した場合は、前の日曜日に行われたフル・バックアップ、および月曜から金曜に実施された増分バックアップからデータをリストアする必要があります。

- i** **メモ**：本プラグインは、SharePoint Online の増分バックアップをサポートしていません。Teams の場合、フル・バックアップにはすべての標準項目が含まれ、増分バックアップにはほとんどの項目のフル・バックアップとチャット・メッセージの増分バックアップが含まれます。

受信箱フォルダーの除外および包含に使用するパターンの追加

バックアップ選択ツリーから受信箱を選択するだけでなく、バックアップするすべての選択したユーザー受信箱に含める受信箱フォルダーと除外する受信箱フォルダーのパターンを作成して保存することもできます。除外または包含するパターンのいずれか、または両方を指定すると、プラグインは、そのパターンをバックアップ・セレクション・セットとともに保存します。バックアップ・ジョブを送信するときに、保存したパターンを持つセットを選択することができます。すると、プラグインによって、指定した包含または除外パターンに一致する名前を持つ受信箱がバックアップ・リストに入力されます。指定できるパターンの数に制限はありません。除外が優先されることに注意してください。

i | **メモ**：この機能は、受信箱フォルダーに対してのみサポートされています。OneDrive、SharePoint Online、Azure AD ユーザーおよびグループはサポートされていません。

パターンを追加するには：

- 1 [ナビゲーション] パネルで、[バックアップ・ジョブ作成] をクリックして、次に [セレクション] リストの隣にある [+] をクリックします。
- 2 セレクション・ツリー内で適切なクライアント・ノードを開きます。
- 3 [プラグ-イン (Microsoft Office 365 用)] をクリックして、コンテキスト・メニューから [包括 / 除外を表示] を選択します。

[包含パターン] および [除外パターン] という2つのサブノードが Office 365 ノードに追加されます。

- 4 除外パターンを指定するには、次の手順を実行します。除外パターンは包含パターンより優先されます。
 - a [除外パターン] をクリックし、[フォルダー・パターンの追加] を選択します。
 - b [除外パターンを入力] ダイアログ・ボックスで、除外するパターンを入力し、[OK] をクリックします。

POSIX (Portable Operating System Interface) 正規表現 (regex) を使用して除外パターンを作成します。たとえば、[迷惑メール] フォルダーを除外する場合は、**迷惑***と入力します。

- 5 包括パターンを指定するには、以下の手順に従います。
 - a [包含パターン] をクリックし、[フォルダー・パターンの追加] を選択します。
 - b [包含パターンを入力] ダイアログ・ボックスで、包含するパターンを入力して [OK] をクリックします。

POSIX 正規表現を使用して包含パターンを作成します。たとえば、**FolderXXX** というフォルダーをすべて含める場合は、**Folder???**と入力します。

対応するサブノードの下に新しいパターンを持つ情報ノードが一覧表示されます。バックアップ・ジョブを設定するときに、利用可能なパターンを選択またはクリアすることができます。

- 6 完了したら、[保存] をクリックして、[新規セットの作成] ダイアログ・ボックスに名前を入力し、[保存] をクリックします。

名前には英数字と英数字以外の文字を使用できますが、非ラテン語系の文字を含めることはできません。Windows の場合、長さ制限はありません。ただし、すべてのプラットフォームで、40 文字以内にするをお勧めします。

バックアップの実行

プラグインを使用してバックアップを実行するには、以下のトピックで説明する手順に従います。

- [バックアップ対象データの選択](#)
- [バックアップ・オプションの設定](#)
- [バックアップ・ジョブのファイナライズと実行](#)

バックアップ対象データの選択

バックアップ・ジョブを作成するには、セット（バックアップ・セレクション・セット、バックアップ・オプション・セット、スケジュール・セット、ターゲット・セット、および詳細設定セット）を使用する必要があります。

バックアップ・セレクション・セットは、増分バックアップに必要です。フル・バックアップを実行中にバックアップ・セレクション・セットを作成してから、フルおよび増分バックアップに使用します。増分バックアップにセレクション・セットが使用されていない場合、バックアップ・ジョブがエラーをレポートします。詳しくは、『Quest NetVault アドミニストレーターズ・ガイド』を参照してください。

- 1 [ナビゲーション] パネルで、[バックアップ・ジョブ作成] をクリックします。

[ガイド付き設定] リンクからもウィザードを開始できます。[ナビゲーション] パネルで、[ガイド付き設定] をクリックします。[NetVault 設定ウィザード] ページで、[バックアップ・ジョブ作成] をクリックします。

- 2 [ジョブ名] に、ジョブの名前を指定します。

ジョブの進捗状況の監視やデータのリストアップ時にジョブを識別しやすくするため、分かりやすい名前を割り当てます。ジョブ名には英数字と英数字以外の文字を使用できますが、非ラテン語系の文字を含めることはできません。Windows の場合は長さ制限はありませんが、40 文字以内に収めることをお勧めします。

- 3 [セレクション] リストの隣にある、[+] をクリックします。

- 4 プラグインのリストで、**プラグ-イン (Microsoft Office 365 用)** を開いて、テナント・ノードを開き、以下の適切なアクションを実行します。

- Outlook、OneDrive、SharePoint Online、または Teams のバックアップ・ジョブを作成している場合は、[Office 365 アプリ] ノードを展開し、該当する項目を選択します。
- Azure AD のバックアップ・ジョブを作成する場合は、ユーザー、グループ、またはサービス・プリンシパルの [AzureAD] ノードを選択します。

i **メモ：** 単一のセレクション・セットでは、Office 365 アプリケーションまたは Azure AD から複数の項目を選択できますが、両方から選択することはできません。Office 365 項目と Azure AD 項目を別々のセレクション・セットにリストアップする必要があります。既存の Azure AD 項目のセレクション・セットを編集するときに、Office 365 アプリケーションの項目を追加する場合は、Azure AD 項目をクリアする必要があります。同様に、Office 365 からの既存の項目のセレクション・セットに Azure AD 項目を追加する場合は、他の Office 365 項目をクリアする必要があります。

- 5 [保存] をクリックして、[新規セットの作成] ダイアログ・ボックスに名前を入力し、[保存] をクリックします。

名前には英数字と英数字以外の文字を使用できますが、非ラテン語系の文字を含めることはできません。Windows の場合、長さ制限はありません。ただし、すべてのプラットフォームで、40 文字以内にすることをお勧めします。

バックアップ・オプションの設定

次の手順には、バックアップ・オプション・セットの作成または既存のセットの選択が含まれています。

i | **ヒント:** 既存のセットを使用するには、[プラグイン・オプション]リストで使用するセットを選択します。

- 1 [プラグイン・オプション] リストの隣にある、[+] をクリックします。
- 2 [バックアップ・タイプ] セクションで、利用可能なオプションを選択します。
 - **フル・バックアップ:** 選択した受信箱（フォルダー、メッセージ、受信箱の設定、ルールなど）や選択した OneDrive または Teams ノードの完全なバックアップを実行するには、このオプションを選択します。
 - **増分バックアップ:** 前回のフルまたは増分バックアップ以降に選択した受信箱、OneDrive、または Teams ノードで変更されたすべてのデータをバックアップする場合、このオプションを選択します。

i | **メモ:** 増分バックアップ・オプションは、SharePoint Online バックアップでは使用できません。Teams の場合、フル・バックアップにはすべての標準項目が含まれ、増分バックアップにはほとんどの項目のフル・バックアップとチャット・メッセージの増分バックアップが含まれます。

詳細は、「バックアップおよびリカバリ戦略の定義」を参照してください。

- 3 [追加オプション] セクションで、利用可能なオプションを選択します。
 - **細分化されたリストアを有効にする:** Outlook のフォルダーレベルと個々の電子メールレベルのリカバリー、および OneDrive のファイルレベルとフォルダーレベルのリカバリーを実行するには、このオプションを選択します。

i | **メモ:** 属性レベルまたは記事レベルでの細分化されたリカバリーは、Azure AD では使用できません。SharePoint Online のサイト・レベルでのみ利用できます。ファイルレベルのリカバリーは、OneDrive のみで利用できます。電子メールレベルのリカバリーは Outlook で利用できますが、Teams では利用できません。

- **マルチストリーミングを有効にする:** 並列ストリームを使用してバックアップ・ジョブの速度を上げる場合は、このオプションを選択してからストリーム数を指定します。入力する値は、設定とネットワーク帯域幅によって異なります。サポートされている最大値は「30」です。

セクション・セットに含まれる受信箱の数が指定したストリーム数より少ない場合、[ストリーム数]設定が自動的に調整されます。

i | **メモ:** 属性レベルまたは記事レベルでの細分化されたリカバリーは、Azure AD では使用できません。SharePoint Online のサイト・レベルでのみ利用できます。ファイルレベルのリカバリーは、OneDrive のみで利用できます。Outlook ではメールレベルのリカバリーを利用できます

- 4 [Outlook オプション] セクションで Outlook のバックアップ・ジョブを設定する場合は、利用可能なオプションを選択します。
 - **再開できるバックアップを有効化:** バックアップを一時停止し、停止した時点から再開できるようにするには、このオプションを選択します。

このオプションを使用すると、バックアップ・ジョブを手動で中断できます。失敗したバックアップ・ジョブは再開されません。
 - **バックアップの添付ファイルを除外:** 添付ファイルとインライン・イメージをメッセージから除外する場合は、このオプションを選択します。

デフォルトでは、プラグインにはバックアップ・ジョブに添付ファイルとインライン・イメージが含まれます。添付ファイルを除外すると、バックアップのサイズが小さくなり、処理速度が向上します。

- **カレンダーのバックアップを除外**：カレンダーを除外する場合は、このオプションを選択します。

i | **メモ**：カレンダーとイベントがバックアップ・ジョブに含まれている場合でも、プラグインは「項目」タイプのイベント添付ファイルを除外します。

- 5 **【名前を設定】** で、セットの名前を指定して、**【保存】** をクリックします。

名前には英数字と英数字以外の文字を使用できますが、非ラテン語系の文字を含めることはできません。Windows の場合は長さ制限はありませんが、40 文字以内に収めることをお勧めします。

バックアップ・ジョブのファイナライズと実行

- 1 **【スケジュール】**、**【ターゲット・ストレージ】**、および **【詳細設定】** リストを使用して、その他の必要なオプションを設定します。
- 2 **【保存】** または **【保存 & 実行】** の、どちらか適切な方をクリックします。

i | **ヒント**：既に作成、保存しているジョブを実行するには、**【ナビゲーション】**パネルで**【ジョブ定義管理】**を選択し、目的のジョブを選択して、**【今すぐ実行】**をクリックします。

【ジョブ・ステータス】 ページで進捗状況を監視したり、**【ログ参照】** ページでログを表示したりできます。詳しくは、『Quest NetVault アドミニストレーターズ・ガイド』を参照してください。

i | **重要**：再起動機能は、受信箱関連のバックアップ・ジョブで利用できます。OneDrive関連のバックアップ・ジョブでは利用できません。

データのリストア

- リストア対象データの選択
- リストア・ジョブのファイナライズと実行
- リストア・プロセス中の受信箱または OneDrive アカウントの再配置
- 細分化された項目の検索

リストア対象データの選択

i | **メモ**：プラグ-イン（Microsoft Office 365 用）では、サービス・プリンシパルのクライアント秘密鍵のリストアはサポートされていません。

- 1 [ナビゲーション] パネルで、[リストア・ジョブ作成] をクリックします。
- 2 セーブセットの表に表示される項目をフィルタリングするには、[フィルター] ▼ をクリックします。
表にはセーブセット名（ジョブ・タイトルとセーブセット ID）、作成日時、サイズ、カタログのステータスが表示されます。デフォルトで、リストは [作成日] 列でソートされます。
- 3 セーブセットの表で、適切なセーブセットを選択します。
セーブセットを選択すると、以下の情報が [セーブセット情報] に表示されます。ジョブ ID、ジョブ・タイトル、サーバー名、クライアント名、プラグイン名、セーブセットの日時、リタイア設定、増分バックアップかどうか、アーカイブかどうか、セーブセットのサイズ、スナップショットベースのバックアップかどうかなど。
- 4 以下のオプションの 1 つを選択します。
 - **デフォルトを使用してすべてをリストア**：あらかじめ設定されているデフォルトを使用してリストアするには、このボタンをクリックし、[ステップ 6](#)に進みます。
 - **リストア：[セレクション・セット作成]** ページを使用してリストアする項目を選択するには、このボタンをクリックして次の手順に進みます。
- 5 [セレクション セット作成] ページで、リストアするデータを選択します。

対応するバックアップ・ジョブに対して [細分化されたリストアを有効にする] オプションを選択した場合、該当するノードを展開して、Outlook でリカバリーする個々のフォルダーと電子メール、または OneDrive でリカバリーする個々のファイルとフォルダーを選択できます。

i | **メモ**：再配置は通常 Outlook と OneDrive でサポートされていますが、チームや Azure AD アカウントではサポートされていません。

SharePoint Online サイトの発行ポータル・テンプレートのバックアップを元の場所にリストアするのではなく、再配置する場合は、このテンプレートのサイトを作成し、[再配置] オプションで新しいサイトの名前をリストア・ジョブに入力します。

本プラグインは、異なるユーザーが作成したカレンダーやイベントのリストアをサポートしていません。また、カレンダーやイベントの細分化されたリストアもサポートしていません。

6 リストア・ジョブの速度を上げる場合は、以下の手順を実行します。

- a [セクション・セット作成] ページで  をクリックして、[一般] タブを [Office 365 リストア・オプション] ダイアログ・ボックスで選択します。
- b [マルチストリーミングを有効にする] を選択し、ストリーム数を入力して [OK] をクリックします。入力する値は、設定とネットワーク帯域幅によって異なります。サポートされている最大値は「30」です。

7 該当するトピックの手順に進みます。

- Outlook 用のリストア・ジョブを作成する場合は、次のセクション「[Outlook でのリストア・オプションの設定](#)」を完了します。
- Azure AD 用のリストア・ジョブを作成する場合は、セクション「[Azure AD でのリストア・オプションの設定](#)」を完了します。
- OneDrive、SharePoint Online、または Teams のリストア・ジョブを作成する場合は「[リストア・ジョブのファイナライズと実行](#)」に進みます。

i | **メモ:** プラグ-イン (Microsoft Office 365 用) では、同期が有効になっている間は、オンプレミスで同期されたユーザーおよびグループのリストアがサポートされません。

AD 同期を無効にした後、オンプレミスで同期された Windows Server Active Directory (AD) ユーザーを Azure AD から削除すると、ユーザーは Azure AD ユーザーとしてリストアされます。管理者は、同期するたびに Azure AD ユーザーに変更されたユーザーに対して、重複する属性の電子メールを受信します。Windows Server AD ユーザーとして再度同期する場合は、Azure AD からユーザーを削除し、再度同期する必要があります。

Outlook でのリストア・オプションの設定

[セクション・セット作成] ページで  をクリックし、Office 365 [リストア・オプション] ダイアログ・ボックスの [Outlook] タブで以下のパラメータを設定します。

- **受信箱を特定のフォルダーにリストア:** 選択した受信箱フォルダーをリストアする特定の場所を指定する場合は、このオプションを選択して、フォルダーの名前を入力します。
- **受信箱設定のリストア:** 選択した受信箱に関連付けられている設定とルールを含めるには、このオプションを選択します。
- **カレンダーを除外:** カレンダーを除外する場合は、このオプションを選択します。
- **添付ファイルを除外:** 添付ファイルとインライン・イメージがバックアップに含まれている場合、リストアから添付ファイルとイメージを除外するには、このオプションを選択します。

i | **重要:** 添付ファイルが含まれている場合、OneDriveアカウントへのリストアを実行するには、SharePoint Onlineライセンスが必要です。

Azure AD でのリストア・オプションの設定

[セクション・セット作成] ページで  をクリックし、Office 365 [リストア・オプション] ダイアログ・ボックスの [Azure Active Directory] タブで以下のパラメータを設定します。

- **ユーザーのパスワードを設定:** 本プラグインは、config ファイルからデフォルトのパスワード `nvbu123*#$` をユーザーに割り当てます。管理者は、このオプションを使用して、リストア時にドメイン・ポリシーに一致する別のパスワードをユーザーに割り当てることができます。このパスワードは、Azure AD から削除された後にリストアされるすべてのユーザーに対して設定されます。

- **割り当てられたライセンスをスキップ**：デフォルトでは、Azure AD ユーザー用にバックアップされたすべてのライセンスは、リストア操作によって割り当てられます。ライセンスを割り当てない場合は、このオプションを選択します。
- **既存のアプリケーションを削除**：デフォルトでは、サービス・プリンシパルに関連付けられている以前のアプリケーションは、サービス・プリンシパルのリストア時に Azure AD から削除されません。サービス・プリンシパルをリストアした後に既存のアプリケーションを Azure AD から削除する場合は、このオプションを選択します。

リストア・ジョブのファイナライズと実行

最終ステップには、[スケジュール]、[ソース・オプション]、および [詳細設定] ページの追加オプション設定、ジョブの実行、および [ジョブ・ステータス] と [ログ参照] ページからの進捗状況の監視が含まれています。これらのページとオプションは、すべての NetVault プラグインに共通しています。詳しくは、『Quest NetVault アドミニストレーターズ・ガイド』を参照してください。

- 1 設定を保存するには、[OK]、続いて [次へ] をクリックします。
- 2 デフォルト設定を使用しない場合は、[ジョブ名] に、ジョブの名前を指定します。
進捗状況を監視する際にジョブを識別しやすくするため、分かりやすい名前を割り当てます。ジョブ名には英数字と英数字以外の文字を使用できますが、非ラテン語系の文字を含めることはできません。Windows の場合は長さ制限はありませんが、40 文字以内に収めることをお勧めします。
- 3 [スケジュール]、[ソース・オプション]、および [詳細設定] リストを使って、その他の必要なオプションを設定します。
- 4 [保存] または [保存 & 実行] の、どちらか適切な方をクリックします。
[ジョブ・ステータス] ページで進捗状況を監視したり、[ログ参照] ページでログを表示したりできます。詳しくは、『Quest NetVault アドミニストレーターズ・ガイド』を参照してください。

リストア・プロセス中の受信箱または OneDrive アカountの再配置

再配置は、受信箱または OneDrive のユーザー・レベルでサポートされていますが、メール、ファイル、またはフォルダー・レベルではサポートされていません。

受信箱または OneDrive アカountの再配置プロセスを完了するには、以下の手順に従います。

- 1 前提条件を満たしたら、[リストア・ジョブ作成] をクリックします。
- 2 セーブセットの表に表示される項目をフィルタリングするには、[フィルター] ▼ をクリックします。
- 3 バックアップ・セーブセットで、適切なセーブセットを選択します。
- 4 [セクション・セット作成] ページを使用して、リストアする受信箱または OneDrive ユーザー・アカountを選択するには、[リストア] をクリックします。
- 5 [セクション・セット作成] ページで、再配置の対象となる受信箱または OneDrive ユーザー・アカountをクリックし、コンテキスト・メニューから [リストア] を選択します。

i **重要:** 以前に電子メールIDを入力した場合でも、該当する受信箱やOneDriveユーザー・アカountのチェック・ボックスは選択されません。受信箱またはOneDriveユーザー・アカountを手動で選択する必要があります。

- 6 [名前変更 / 再配置] ダイアログ・ボックスの [再配置] ボックスに受信箱または OneDrive ユーザー・アカウントの新しい場所を入力して、[OK] をクリックします。
- 7 「Outlook でのリストア・オプションの設定」および「リストア・ジョブのファイナライズと実行」の説明に従って、リストア手順を続行します。
受信箱は、元の受信箱のサブセットとして、元の場所に新しい名前でもリストアされます。

細分化された項目の検索

[リストア・ジョブ作成 - セーブセットの選択] ページの [検索] オプションにより、セーブセットを開いたり、そのコンテンツを参照したりすることなく、特定のファイルやデータ・アイテムを検索することができます。ファイル名、正規表現、またはチーム名を利用して、リストアするデータ・アイテムを検索することができます。さらに、[細分化されたリストアを有効にする] オプションを有効にした場合、メール・メッセージの件名、送信者、受信者、受信日時を使用して Outlook バックアップを検索できます。Azure AD バックアップで Azure AD ユーザー、グループ、サービス・プリンシパルを検索したり、[名前] 基準を使用してサイト名で SharePoint Online セーブセットを検索したりすることもできます。

カタログ検索を構成または有効にするには、ナビゲーション・パネルから [カタログ検索] を選択します。カタログ検索は、Elasticsearch で使用される正規表現構文に対応しています。Elasticsearch について詳しくは、<https://www.elastic.co/guide/en/elasticsearch/reference/current/query-dsl-regexp-query.html> を参照してください。カタログ検索について詳しくは、『Quest NetVault アドミニストレータズ・ガイド』を参照してください。

セーブセットの項目を検索するには：

- 1 [リストア・ジョブ作成 - セーブセットの選択] ページで [検索] をクリックします。
- 2 [セーブセット内のファイルを検索します] ダイアログ・ボックスで、以下のオプションを設定します。
 - [検索する文字列]：検索する文字列を入力します。
 - [正規表現検索]：[検索する文字列] ボックスで POSIX 正規表現を使用する場合は、このチェック・ボックスを選択します。
 - [従来の検索方法を使用する]：カタログ化されたセーブセットとカタログ化されていないセーブセットの両方が検索に含まれている場合は、このチェック・ボックスが表示されます。

カタログ化されていないセーブセットのみが検索に含まれている場合、または [従来の検索方法] を選択している場合は、従来の検索が使用されます。

カタログ化されたセーブセットのみが検索に含まれている場合、または [従来の検索方法] にチェックが付いていない場合は、カタログ検索が使用されます。

i **メモ**：Outlook バックアップでは、[件名] または [名前] を使用して検索をフィルタリングできません。バックアップで細分化されたリストアが有効になっている場合は、[件名]、[送信者]、[受信者]、[受信日時] を使用して検索を絞り込むことができます。

- 3 1つまたは複数のセーブセットで検索を行うには、該当するセーブセットを選択して [検索] をクリックします。
セーブセットを選択していない場合は、すべてのセーブセットが検索に含まれます。[検索結果] ページには、指定したファイルまたはデータ・アイテムを含むセーブセットが表示されます。
- 4 リストアする項目を選択します。
1つのセーブセットからのみ項目をリストアできます。
- 5 [選択した項目のリストア] をクリックします。
- 6 「リストア対象データの選択」のステップ 6 を実行します。

トラブルシューティング

このトピックでは一般的なエラーとその解決方法について説明します。

表4.トラブルシューティング

問題	説明
<ul style="list-style-type: none"> バックアップ・レコードの追加に失敗しました バックアップ・インデックスをデータベースに書き込むことができませんでした <p>これらのメッセージは、選択されたデータのバックアップは完了したものの、NetVaultによってジョブのインデックス情報がデータベースに適切に追加されなかったことを示します。このインデックス情報が追加されていないと、データは正しくリストアされません。</p> <p>チャンネル・メッセージはバックアップされず、[会話]タブはチームのチャンネルのリストア選択ツリーに表示されません。</p>	<p>方法1: [デバイス管理]ページを開いてバックアップ・メディアを選択し、[スキャン]をクリックします。NetVaultでは、バックアップ・ジョブのインデックス情報はNetVaultデータベースとバックアップ対象メディアの双方に保存されます。このスキャンを実行することで、インデックス情報がNetVaultデータベースに書き込まれます。情報が追加されたことを確認するには、[ジョブ定義管理]ページを開いて対象のジョブを見つけます。ジョブを実行できるようになった場合、スキャン・プロセスにより問題が修正されています。</p> <p>方法2: 方法1が失敗した場合は、バックアップ・ジョブを再実行します。</p> <p>チャンネルにメッセージが含まれていない場合、[会話]タブは選択ツリーに表示されないはずです。ただし、チャンネルにメッセージが含まれている場合は、[ログの表示]ページで次のエントリを確認し、いずれかのソリューションを実装します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ユーザーがチャンネル・メッセージにアクセスできません。設定済みユーザーに必要なアクセス権があることを確認してから、再試行してください。」 解決方法:この問題を回避するには、設定済みユーザーが、チーム作成者であるか、問題が発生しているチームのメンバーまたは所有者であることを確認します。 「設定済みユーザーでは多要素認証が有効になっています。無効にしてから、再試行してください(バックアップ・チャンネル・メッセージの場合)。」 解決方法:設定済みユーザーの多要素認証(MFA)を無効にして、ジョブを再度実行します。

弊社について

Quest は、急速に変化する企業 IT の世界にソフトウェア・ソリューションを提供します。データの急増、クラウドの拡張、ハイブリッド・データセンター、セキュリティの脅威、規制要件によって生じる課題を簡素化することができます。弊社は、Fortune 500 の 95% の企業および Global 1000 の 90% の企業など、100 か国におよぶ 130,000 社にサービスを提供するグローバル・プロバイダーです。1987 年以來、データベース管理、データ保護、ID およびアクセス管理、Microsoft のプラットフォーム管理、統合エンドポイント管理などのソリューションのポートフォリオを構築してきました。Quest により、組織は IT 管理に費やす時間を短縮し、ビジネスの革新に費やす時間を増やすことができます。詳しくは、<https://www.quest.com/jp-ja/> を参照してください。

テクニカル・サポート用リソース

テクニカル・サポートは、Quest の有効な保守契約を締結している場合、または試用版を保有している場合にご利用いただけます。Quest サポート・ポータル (<https://support.quest.com/ja-jp>) にアクセスすることができます。

サポート・ポータルには、問題を自主的にすばやく解決するためのセルフヘルプ・ツールがあり、24 時間 365 日ご利用いただけます。サポート・ポータルでは次のことを実行できます。

- サービス・リクエストの送信と管理。
- ナレッジベース記事の参照。
- 製品に関するお知らせへの登録。
- ソフトウェアと技術文書のダウンロード。
- 入門ビデオの視聴。
- コミュニティ・ディスカッションへの参加。
- サポート・エンジニアとのオンライン・チャット。
- 製品に関する支援サービスの表示。